



Network Japan Integration
 株式会社 エヌジェアイ

介護現場の共通課題

人手不足

過重労働

急変対応

サービス品質の
維持・向上

説明責任

コスト削減



非接触型バイタルセンサー
×見守りシステム
→安心の可視化
予兆をとらえる見守りの実現

安心ひつじS8開発経緯

当社製品の「安心ひつじα」は、
これまで高齢者の見守りを目的
としてすでに多くのユーザー様に
ご利用いただいております

高齢者施設を対象として、
全国で約6,000台が
利用者の皆様を見守っています



「ここで得たノウハウを
在宅の皆様に活用できないものか」

その考えのもとに新たな「在宅用センサー」
安心ひつじS8の開発に至りました

安心ひつじ製品比較

	安心ひつじα	安心ひつじS8
利用シーン	主に施設向け	主に在宅向け
通信方法	Wi-Fi	SIM
ビューワ	PC・スマートホン	スマートホン・タブレット
心拍範囲	40～100	40～120
呼吸範囲	5～30	5～40
振動センサー	6個(6×1列)	8個(4×2列)



安心ひつじS8の特徴

- ・マットレスの下に敷いて使用する、非接触型センサーです
感染症対策にも優れています
- ・センサで検知した体動から心拍・呼吸の状態を把握し、体調の変化を見守ります
- ・普段と異なる変化がある場合(心拍数が普段より高い場合、夜間帯離床して戻ってこない場合、昼間の臥床時間が長い場合、普段起きる時間に起きない場合)は設定しているメールアドレス先へアラートでお知らせいたしますので体調の変化に家族やスタッフが素早く気づけて確認することが出来ます



マットレスの下に設置する体動センサです

心拍・呼吸の見える化を実現！

こんな時に
役立ちます



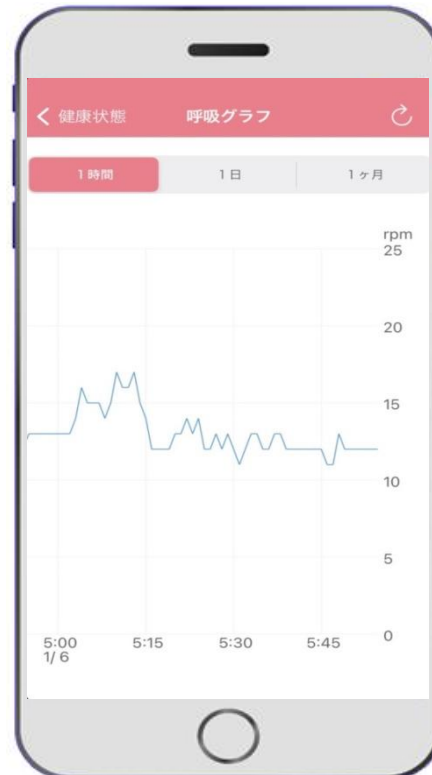
いち早く自分の
体調変化に
気づきたい

睡眠状態を知る
事で、生活習慣を
見直したい

遠くにいる
1人暮らしの
家族の睡眠状態を
確認したい



LTEモデル
アプリでのデータ確認で在宅での利用も想定



※画面イメージ

将来はAI連携で「予兆をとらえる見守り」へ
→バイタルセンサーで“何か起こる前”をとらえる安心の提供を目指す



テラーメイド型個人カルテの実現へ

そのほかにも 安心ひつじS8の特徴として・・・

- ①布団や介護ベットにも装着可能で
介護ベット使用時にはセンサのズレ防止の
固定板や通信ユニットを固定するための
マジックベルトも付属されております
- ②事前に登録したメールアドレス先4か所までアラートを
飛ばすことが出来て、身体の状態をいち早く
確認することが出来ます
- ③臥床時(寝ているとき)の体の動きを感知し、
心拍、呼吸、体動をグラフ化・ピクトグラム化し、
緑色・黄色・赤色などのカラーサインによって
身体の変化が見える化出来ます
- ④医療機器クラスⅠを取得しており
「医療機器」としての信頼性を提供させて頂いております
- ⑤Wi-fiを使用せず電源コンセントに挿すだけですぐに使用可能です
通信ユニットにSIMカードをセットした状態でお渡し致します



安心ひつじS8をご利用していただくことでの気付き

安心ひつじS8は、身体が発する微弱な振動を
アルゴリズムで感知するセンサー

①心拍

臥床時(寝ている時)の心臓の拍動を検知

例)いつもより心拍が多い
⇒熱があるかも・・・？

②呼吸

臥床時の呼吸を検知

例)いつもより呼吸が少ない
⇒無呼吸症候群の可能性もあるかも・・・？

③体動

寝返りなどの動きや離床を検知

例)頻繁に動いている、何度も起きる
⇒トイレの回数？よく眠れていない？⇒体調変化への気付き

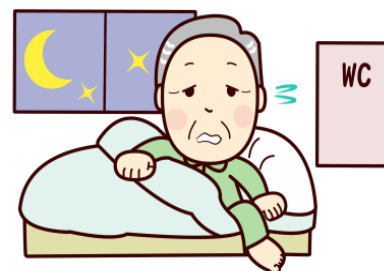
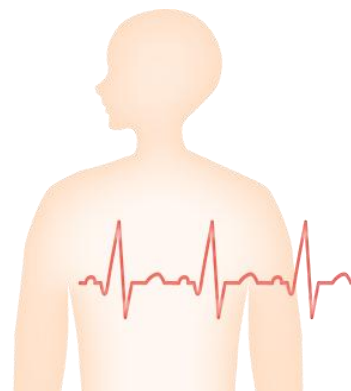
④設置が簡単(ベッドや布団の下に置くだけ)なので、

使用される方の負担無く、いままでの生活に一切支障はありません

⑤災害時や孤立時にも、住民の安否確認ツールとして活用が可能です

(成人用センサなので対象年齢は12歳以上の方に御使用ください)

⑥家族への安心材料としても大きな付加価値となります

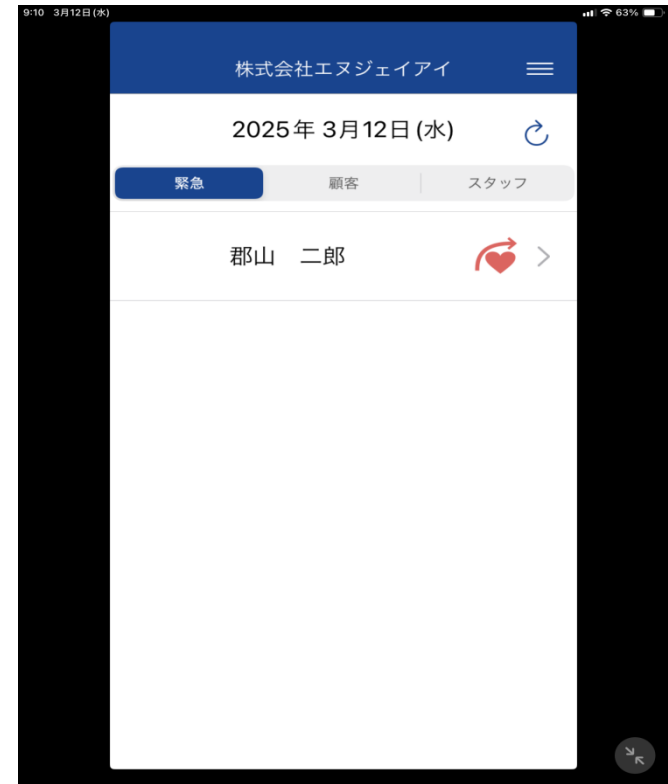


S8管理アプリ機能



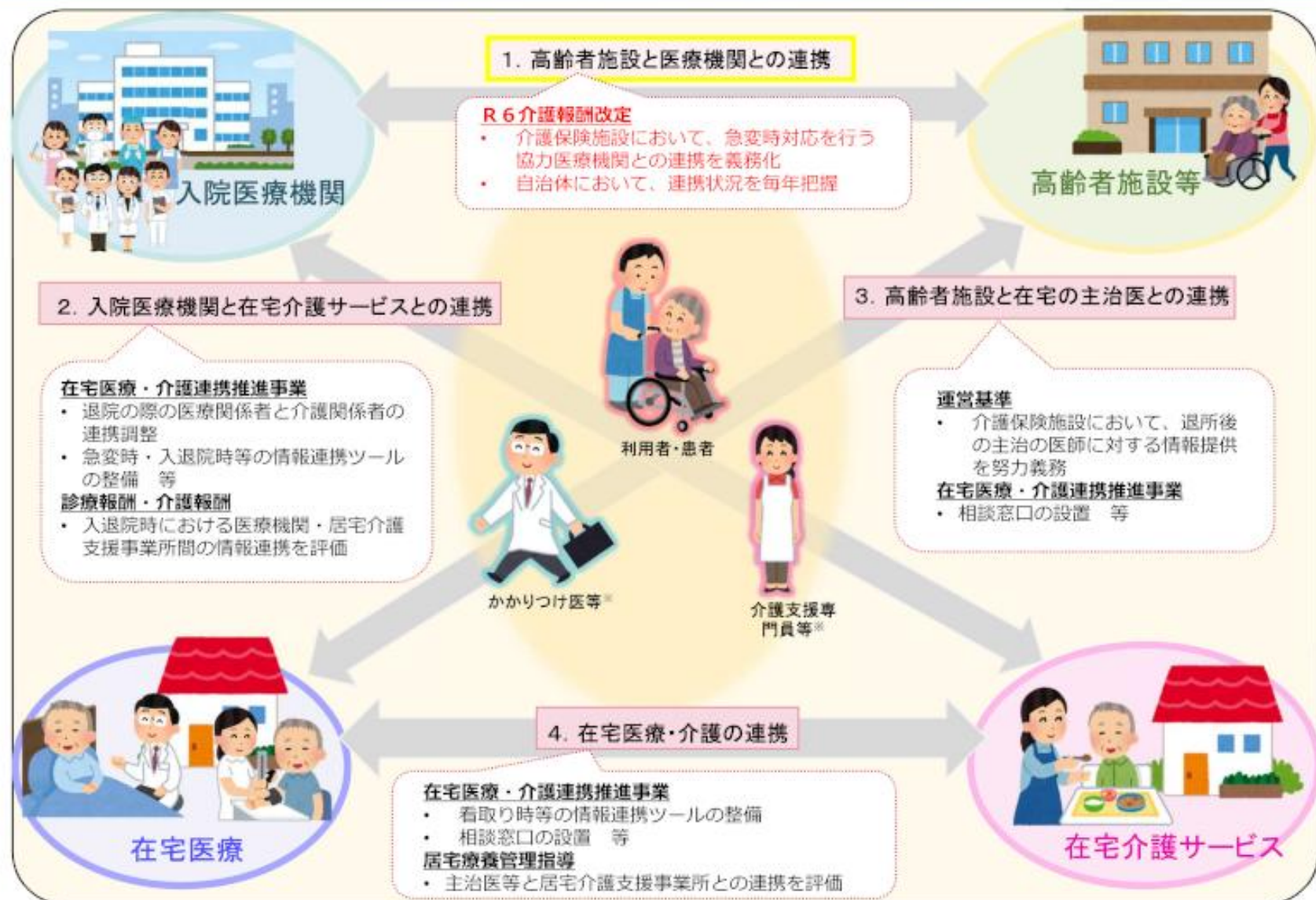
※最大200名の利用者のデータ回覧が可能

※昨日1日の状態を色分けして回覧できる
(赤:異常 黄:注意 緑:正常)



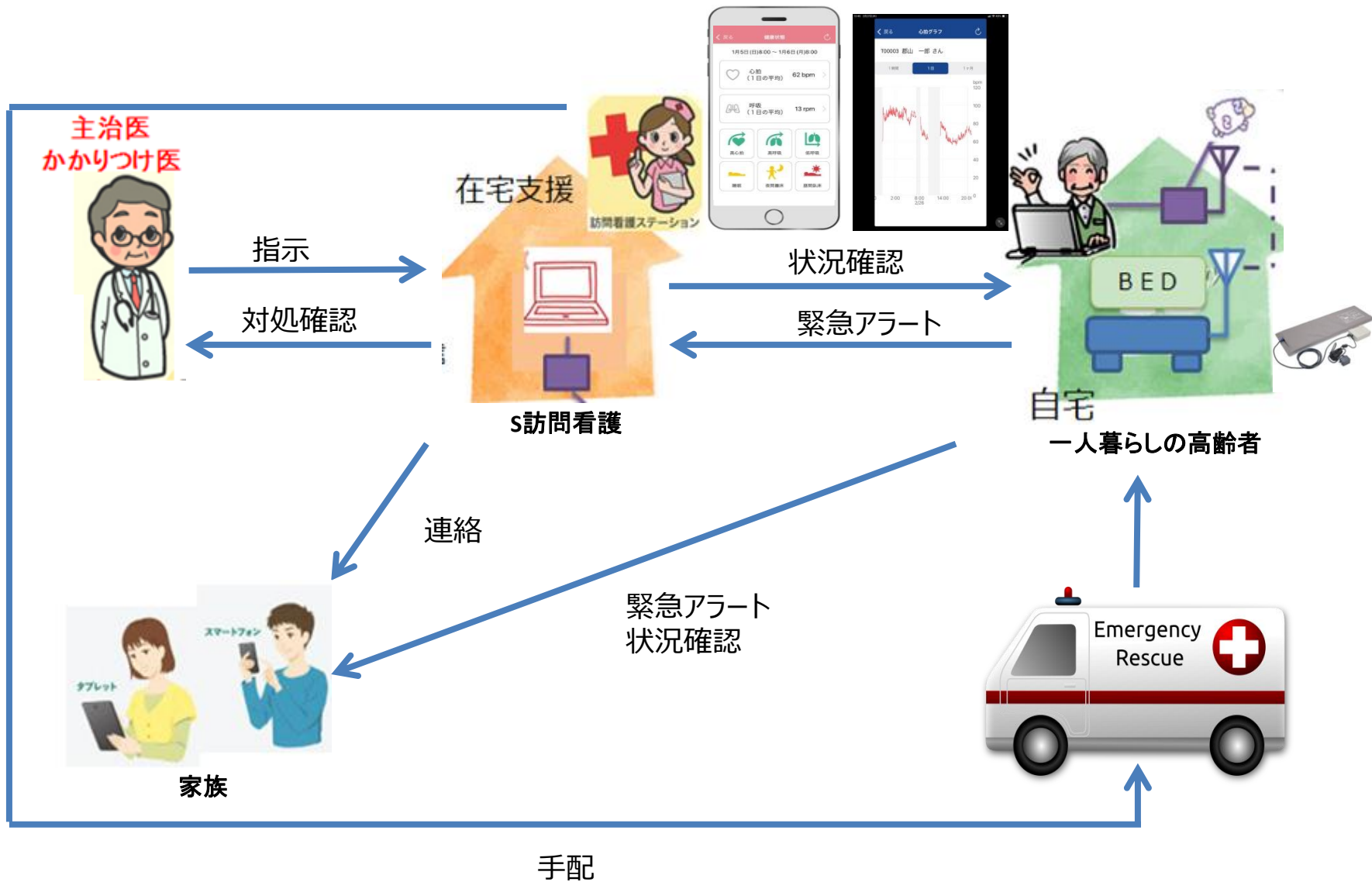
※緊急時には設定したメールアドレスと管理アプリにお知らせ
アラート機能あり
(心拍上昇時、夜間離床から戻らない、昼間臥床しているなど)

医療・介護連携の主な取組について



※医療と介護に係る多職種が関わっていることに留意が必要。

S訪問看護ステーションでの安心ひつじS8デモ事例



S8の活用の効果

他事業所との差別化

アセスメントの精度向上

状態による訪問計画
訪問の効率化

スタッフの精神的負荷軽減
訪問前に状態が把握できる

リクルーターへのアピール

在宅時の健康状態 生活リズムの見える化

健康状態の連携・信頼構築
医療・介護・家族

疾病の早期発見により、
早期治療に繋げる

安心感をアピール
利用者増